



韓国赤十字社を訪れ、鄭元植総裁(右)に北朝鮮の食料危機への支援金を手渡す小松社長(98年7月)

るが模索する中から、今回その後、原徳興産後藤康信社長の紹介で松江ライオンズクラブに入会、国際委員会委員長として韓国クラブと交流、また島根県日韓親善協会にも入会、毎月500万円を韓国赤十字社に寄付された。この間、原徳興グループ創業者・足立順太郎会長の講話で日韓の歴史を学ぶ機会を得る。小松は20年ほど前、取引先で、日韓関係改善の必要性を感じた。90年、東宇技術研曹秀煥社長と業務提携し、社員研修で韓国を訪問した。記念館への寄付も、最初はなかなかわかっていただけだったが、曹秀煥社長のご尽力で、実現した。

# 韓国に技術協力を全

つて、その相手としばらく力と趣意書を読んでもらう口論になった。昨日のこと。また、自衛隊の元隊長・海原治氏の講演で「韓国の人と付き合えば、七奪と関心事を理解しない」と聞いた。

幸福にするために、一日も早く帰国したいと思つてゐるが、到頭永久に別れねばならなくなつたことは、何れも残念だ。第一、君たちが生きてゆくのだが、私たちは、之から人生の荒波と闘つて生きてゆくのだが、君たちはどんな辛い日があつたらうとも光輝ある日本民族を片時も忘れてはならぬ。また君たちはどんな辛い日があつたらうとも、人類の文化創造に参加し、人類の幸福を増進するという進歩的な思想を忘れてはならぬ。偏頗で矯激な思想に迷つて

はならぬ。どこまでも真面目で、強い能力のある人間に目な、人道に基く自由、博愛、幸福、正義の道を進んで呉れ。最後に勝つものは道義であり、誠であり、まごころである。友だちと交際する場合にも、社会的に活動する場合にも、生活のあらゆる面において、この言葉を忘れてはならぬ。人の世話にはつとめて進んでせよ。但し、無意味な虚栄はよせ。人間は結局自分一人の他に頼るべきものが無い——といふ覚悟

て、日本に技術移転を要求している。韓日関係の発展、世界の調和という視点で考えると、日本はもう少し技術を韓国に与えてよい。日本語に「損してトク」といふ言葉もある。韓国経済が活性化すれば、将来的には日本製品も売れる。韓日ともに利益になるはず。社長の英断を高く評価したい。

で、偉くすれば、君等が博士や大臣を求めなくても、博士や大臣の方が君等の方へやってくることは必定だ。要は自己完成！しかし浮世の生活のためには、致方なしで或る程度打算や功利もやむを得ない。度を越してはいかぬぞ。最後に勝つものは道義だぞ。君等が立派に成長してゆくであらうことを思ひつつ、私は満足して死んでゆく。どうか健康に幸福に生きてくれ。長生きしておくれ。最後に自作の戒名「久遠院智光日慈信士。一九五四年七月二日 山本幡男」

全 社長の講話や、この遺書を読ませていただいたら、人間とは何なのか改めて考えさせられた。人間は歴史の中に学びつつ生きていく。社長の構想は、とてもスケールが大きい。ぜひ実現してほしい。小松 どうもありがとうございました。これをご縁にご指導のほど宜しくお願いいたします。



## 「地球ユートピアモデル事業構想」の誕生過程

- 1988年4月 島根県商工会連合会とタイアップ、若手経営者20名を集め小松電機産業創業の場所にて「知草塾」を始める。
- 1989年6月 異業種7社で協同組合「テクノくにびき」設立。参加者300名で設立記念式典。
- 1990年10月 韓国企業「東宇技研」とシートシャッター「門番」の業務提携。
- 1991年1月 中小企業研究センター賞受賞〔(社)中小企業研究センター〕
- 1991年10月 ニュービジネス大賞受賞〔(社)社団法人ニュービジネス協議会〕
- 1993年1月 地域社会貢献者賞受賞〔日刊工業新聞社〕
- 1994年11月 「神在月縁むすび全国大会」開催。参加者260名。
- 1995年4月 HNS(人間・自然・科学)研究所設立。「一村一志運動」提唱。『治水の偉人 周藤弥兵衛』(漫画・児童文学・小説)出版。「周藤弥兵衛シンポジウム」開催。参加者280名。
- 1995年4月 注目発明選定証受証〔科学技術庁〕
- 1995年7月 ラグーン式水処理の開発者・岸博氏、食と平和への貢献でスミソニアン博物館殿堂入りした久司道夫氏を招き「人と水と食のシンポジウム」開催。参加者250名。
- 1995年11月 「第1回神在月縁むすび世界大会」開催。参加者600名。
- 1996年3月 地域活性化貢献企業賞受賞〔日本経済新聞社〕
- 1996年5月 HNS研究所「中海本庄工区の未来構想」発表会開催。参加者500名。
- 1996年9月 HNS研究所「中海本庄工区の未来構想」シンポジウム開催。参加者500名。
- 1997年3月 「第2回神在月縁むすび大会」開催。参加者600名。
- 1997年5月 ダイヤモンド社刊・森清著『母なる中海—汽水湖は二十一世紀文明の子宮』出版。
- 1997年6月 韓国独立記念館に100万円を寄贈。
- 1998年1月 HNS研究所『治水の偉人・清原太兵衛』(漫画・児童文学・小説)発行。シンポジウム開催。参加者250名。
- 1998年5月 中国『伝世蔵書』を島根大学に寄贈。
- 1998年7月 韓国赤十字社に北朝鮮食糧援助資金500万円を寄付。
- 1998年8月 島根、東京(9月)で開かれた「共生文明フォーラム・混迷からの脱出」で文明法則史学の林英臣氏と共に講演。参加者200名。

## ISO9000,14000認証工場の旗印



地球温暖化防止に大活躍

# Excellent 門番

- KUシリーズ
- 省エネ効果 高速開閉により空調効果UP!!
- 防虫・防塵効果 防虫シートを採用
- 抗菌シート 滅菌処理した抗菌シートを設定

社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう。  
**小松電機産業株式会社**  
 ホームページ <http://www.komatsuelec.co.jp>  
 東京支社 〒105-0013東京都港区浜松町1丁目18-13 高桑ビル5F  
 TEL(03)3431-3841 FAX(03)3431-4665  
 本社 〒690-0046島根県松江市乃木福富町735-188  
 松江湖南テクノパーク内  
 TEL(0852)32-3630 FAX(0852)32-3621



## <提言> 独島=竹島を「地球共生・縁むすびの島」に

「ニューワールド(地球ユートピアモデル事業)構想」設立準備室

「われわれ両国が善き隣人、善き友人同士として手を握り、21世紀を開拓していくのに、克服できない障害はありません」。韓国の金大中大統領は日本の国会でこう演説されました。各国国民が、文化・技術・経済の活発な交流によって、豊かで生きがいのある人類共生の未来を切り拓く。そのために重要なのは「善き隣人、善き友人同士」としての信頼関係です。この後世に残す最も基本的な財産の構築を怠ることは、金大統領も言われたように、「将来の子孫に対して恥ずかしく、かつ、指弾されるべきこと」です。

私たちは「天寿が全うでき、楽しく愉快に生きられる地球社会の創造」という人類の根源的にして究極の目的に向かって応分の役割を担うことが、21世紀において「共生できる人間の条件」であると考えます。

では、今を生きる韓日両国民と在日韓国人はどんな役割を担えばいいのか——それは両国の地政学的な位置と歴史の両面に照らせば自ずと明らかになってきます。私たちは「人縁・感謝と戦争の歴史記念館」を国際プロジェクトとして建設する構想を提案しています。日本の国際交流の歴史を「人」に焦点を当て、日本と歴史的に関わりのあった国々の方にご協力をお願いし、史実を調査。一方、過去の戦争についても、関係諸国の方々にご協力を願って事実の調査を行い、当事国双方が共通の認識に至った事実の背景・原因・経緯を検証します。その成果を、世界の平和と繁栄に資する人類共有の財産として、現代を生きる世界の人々と子孫にわかりやすく、未来志向で展示する記念館です。

私たちは今、「善き隣人、善き友人同士」として韓日両国民と在日韓国人も、独自の共同事業を立ち上げる時がきたと考えます。

金大中大統領訪日時の国会演説により、新しい韓日関係が開かれたことを契機に、独島=竹島にモニュメントを建設し、「地球共生・縁むすびの島」にしようではありませんか。

現代グループの鄭周永名誉会長のご努力により、近く開始予定の金剛山観光事業とリンクさせていただき、日本の境港、独島=竹島、東草市、金剛山を結ぶルートで「地球共生・縁むすびクルージング・ツアー」を企画。出会いを通じて、各人が21世紀の世界で、どんな役割を担い、どう行動していけばよいかを考える糸口を見出す。これが「地球共生・縁むすび」の意味です。知識・知恵・技術・資金等をご提供いただける方、ご連絡をお待ちしております。

未来に向かつて確かな一歩。竹島(独島)に、地球共生・縁むすびの像を。